

新 信州ネイチャーセンター構築事業

自然保護課

1 目的

豊かな自然とのふれあいの機会の増加を図るため、自然保護センター機能強化や、他のビジターセンターとの広域連携、人材育成により、エコツーリズムの普及・拡大を目指す。

主要事業	細事業	目指す姿
自然保護センターの機能強化	自然体験施設として機能強化(展示物更新・情報発信強化等) 自然解説サービスの充実	・ガイド情報、自然情報及び観光情報が一元化にされ、情報収集が容易 ・雨天時でも室内で自然体験が可能 ・インバウンド対応した自然解説サービス
他団体(ビジターセンター等)との広域連携	自然情報の提供・情報共有 エコツーリズム推進体制整備 人材育成事業の活用提案	・複数地域で情報提供が容易(霧ヶ峰⇄美ヶ原) ・広域でのツアープログラムの提供が可能(乗鞍→上高地ツアー等)
人材育成事業	質の高いガイド人材の育成 魅力的なプログラムの提供	・利用者ニーズに応じた無料ガイドと有料ガイドの案内が可能 ・ガイドのレベルが一定以上担保 ・民間ガイドが活性化し自己研鑽が進む

2 実施背景と取組の経過

〈社会の流れ〉

持続可能な開発目標 (SDGs) を企業が経営に導入するなど、多様な主体による取組が展開

〈長野県の今後の方向性〉

保全と持続可能な利用の実現 + 自然体験ニーズの高まり (目的の多様化・高度化)

『エコツーリズム』の重要性が高まっている
※エコツーリズム…自然環境の保全と持続可能な観光のあり方

〈期待される効果〉

- ・自然公園の保護と利用の両立
- ・環境保全に対する学びの推進
- ・一人多役の一部となる雇用の創出
- ・サステイナブル観光の推進

今まで

ハード整備を重点に展開

- ・登山道等危険個所の解消
- ・環境配慮型トイレの設置 他

3 エコツーリズムの現状・課題

エコツーリズム推進法の施行から 10 年が経過したが取組は普及せず ⇒ 推進の中核となる団体が不存在

- ・ツアー手法や質が様々で、受け手の印象はバラバラ
- ・有料ガイドは、一部地域(軽井沢・上高地等)のみ
⇒ 魅力的なツアープログラムや質の高いガイドを行う人材が不足
- ・ガイド事業者やビジターセンターが個々で活動し、エコツアーを実施
⇒ 地域間・広域での連携が不足し、情報共有の機会が乏しい

人材育成の必要性

広域連携の必要性

4 事業概要

(1) 自然保護センター機能強化検討事業 (5,282 千円)

センターの基本方針を策定したうえで、地域の実情を踏まえた機能強化を実施し、エコツーリズムの拠点として整備する。

(2) 信州の自然保全・活用・価値発信事業 (1,844 千円)

信州の豊かな自然環境の価値を科学的に解明する研究成果を自然解説等に活用し、利用者へ発信することにより、自然保護活動の推進を図る。(環境保全研究所との連携事業)

(3) ガイド人材育成事業 (H31 実施予定)

単純な自然解説だけでなく利用者が何度でも訪れたいような満足度の高いツアーを実施できるガイド人材の養成研修を実施し、県内各地で質の高い自然体験プログラムを提供する。

新 信州の自然保全・活用・価値発信事業

（信州ネイチャーセンター構築事業）

自然保護課

1 目的・ねらい

信州の多様な自然資源の希少性・価値を、調査・研究により地域の価値として統合して示し、危機に直面している自然資源の保全対策に活かすとともに、調査・研究成果を信州ネイチャーセンター構築・運営に活用することにより、自然資源の持続可能な活用と地域経済の活性化につなげる。

注）H29 年度研究推進会議（環境保全研究所主催、環境部の部課長を交えて検討）で示された「信州の山岳高原の科学的価値を資源として地域活性化につなげる」という視点に基づく事業。

2 現状と課題

現在、長野県内には、シカ食害や地球温暖化の影響等により緊急に対応が必要な生物多様性ホットスポット（危機的重要地域）が2つあり、それは霧ヶ峰高原の草原と白馬岳である。

○霧ヶ峰高原の草原：縄文時代から人の関与で維持されてきた可能性があり、固有種が多く、歴史的遺産としての価値もつが、ニッコウキスゲ等をシカが食害し、草原維持の火入れも中断されている。しかし、その価値が地域資源として十分に発信されていない。

○白馬岳は、氷期に移入した高山植物の国内有数の残存地であるが、シカが迫りつつある。しかし、その価値が地域資源として十分に発信されていない。

同様に、上記2地域以外にも信州の各地域には特徴ある多様な自然資源が存在するものの、その価値や魅力を地域経済の活性化に活用する取り組みは十分とは言えないまま危機にさらされている。今後、信州の自然を賢明に保全・利用するには、2箇所における調査・研究成果をもとに保全対策と資源活用のあり方を検討し、その成果を順次、県内各地域の自然資源に援用していく必要がある。

3 事業内容

（1）自然環境の調査・研究と将来予測に基づく保全、持続的管理

保全の緊急度の高い危機的重要地域（霧ヶ峰高原・白馬岳）において、生態系変化の将来予測等の調査・研究を行い、その成果を、保全対策及びネイチャーツーリズムに役立てる。

○霧ヶ峰高原：草原の管理形態（火入れ・シカ対策等）が生態系の状態とその価値に及ぼす影響を解明し、中長期的な草原維持方法を提案するとともに、草原管理作業を参加体験型ツーリズムに組み入れたり、霧ヶ峰ならではの生態系の四季変化等の動態を動画で提供するなど、研究の視点から明らかになる貴重な情報をガイド用テキストやツアープログラム作成のために提供する。

○白馬岳では、高山帯へのシカの侵入予測を行い、重点的に植生を保護すべき区域等を解明し、地域や動植物について保護と利用の区分を明確化した上で、高山植物や高山チョウなど白馬岳ならではの生態系の動態を動画で提供するなど、研究の視点から明らかになる貴重な情報をガイド用テキストやツアープログラム作成のために提供する。

（2）ネイチャーツーリズムを促進する情報作成、発信

① ガイド育成用テキストに掲載するコンテンツ作成

霧ヶ峰高原・白馬岳で実施するネイチャーツーリズムのガイド育成用テキストに掲載する地域自然の価値や魅力を、（1）の研究成果を加工して作成する。

② ツアープログラムの開発

ガイド育成用テキストに掲載するためのコンテンツを、ツアー参加者向け冊子の素材として、スポット（地点）ごとにまとめ、ガイドブック（冊子）の素材として加工する。

③ 誘客・発信用HP（英語版含む）の構築・運用による情報発信

ガイドブック用に加工した地域自然固有の価値や魅力を国内外でも理解しやすい形で HP（和・英）に掲載し、情報発信する。